

メタルコアを外す時に どんな方法を使っていますか？



吹上みなみ歯科
(名古屋市昭和区)
院長 相宮 秀俊



■ 日常臨床で大きな割合を占める撤去…

私の臨床では、現在まで様々なメタルコアの撤去法を試行錯誤してきました。状況によっては有効に撤去できる器具もありますが、使用方法が煩雑だったり、大きくて口腔内に入りにくいことにより思うような撤去が叶わないことも多くありました。結局、長いカーバイドバーにて、切削する撤去法を選択し、気がついたら残存歯質は薄くなり、コアの先はまだ根管内…といったことを多く経験してきました。かといってメタルコアと残存歯質の間に思い切って力を加えると…パキッ…

という嫌な音と共に根にクラックが入り、抜歯という最悪の事態に陥ることも考えられます。

私の臨床において、撤去の悩みに対して、ワム X を用いた撤去法が画期的に変えてくれました。

理想的なメタルコア撤去とは、残存歯質を可能な限り多く残し、できれば無傷でメタルコアをスピーディーにかつ効率的に撤去することです。そのために、私の臨床では残存歯質を有効に活用し、メタルコアには歯冠方向に垂直的に力を加え、残存歯質には歯根方向に均等に無理のない力で同時に引き上げることを意識しています。実際にワム X を使用し撤去するときは、切削量の軽減、歯根破折のリスクの回避を考えます。特に残存歯質量と幅、力を加えた時の向きはとても重要です。試適時にブロングから加わる力が垂直的にかかるように、いろんな角度からチェックします。もし残存歯質量が少ない場合に

はコンポジットレジンにて補強することで歯質の幅を確保でき、安心してワム X のブロングに力を加えることができます。ブロングに力を加える前に超音波スケーラーにてメタルコアに振動を与え、メタルコアと歯質の間に存在するセメントの接着力を緩めておくことも破折のリスクの軽減には有効だと思います。準備が終わったらゆっくりとハンドルを握り、ブロングに力を加えるだけで、気持ちよく撤去することができます。予知性ある撤去により歯頸部付近の残存歯質が残り、クラウンの長期的安定に重要です。

ワム X は、今までは煩わしいと思っていた撤去のストレスがなくなること間違いなしです！！日常臨床の悩みを解決する大切なツールとなりました。

参考症例



写真1
不適合な前装冠を撤去した状態。大きなメタルコアが装着されている。歯頸部には健全歯質が残っていることからなるべく厚みを残して撤去したい。



写真2
デンタルにて残存歯質の量、メタルコアの太さ・長さ、近遠心的向き、歯根破折の有無、根尖病変の状態を確認する。本ケースではメタルコアの先が歯根 1/3 程度まで入っている



写真3
メタルコアが撤去できるように形成を行う。ワム X のブロングから加わる力が垂直的にかかるように意識した形成を行うことが大切である。

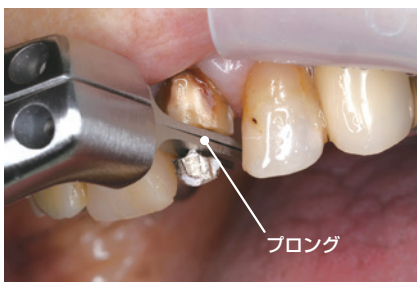


写真4
ブロングの試適を行う時には、根元までしっかりと入っていること、力を加えてブロング同士が開いた時に残存歯質が引っかからないことを確認する。そしてハンドルに手をかけメタルコアを垂直に引き上げるようにゆっくりと力を加える。



写真5
メタルコアを無事に撤去することができた。歯根には破折は認められない。



写真6
残存歯質を可及的に残した撤去ができた。支台歯形成の後も全周に健全歯質が確保できそうである。ワム X を有効に使用することで安全で効率的な撤去が可能となった。

ワム X 金属コア除去イントロキット (広告はP.21 をご覧ください)